



結小だより

- ★自分で学ぶ子
- ★仲よく助け合う子
- ★自分でできたえる子



冬季オリンピックの感動を 子どもたちへのまなざしにつなぐ

校長 中野 由美

冬季オリンピックが閉幕しました。氷上をすべる選手の気迫、雪の斜面を躍動する姿、競技後に流した涙や笑顔——そこには多くのドラマがあり、その一瞬一瞬が心に残ります。

メダルを獲得した選手だけでなく、思い描いた結果に届かなかった選手の言葉にも、深い学びがありました。ある選手は、結果に悔しさをにじませながらも、「悔しいけれど、今日までの努力を誇りに思います。」と語りました。その言葉は、まさに今、この学校で力いっぱい生活している子どもたちの姿と重なります。

漢字を書けるようになりたい、リコーダーできれいに演奏したいと願い、練習する姿。

跳び箱の前で、怖さを押し込めながらも一歩踏み出す姿。

友達との関係に悩んでも、また明日、笑顔で登校しようとする姿。

子どもたちは、毎日が“挑戦”の連続です。

大人から見ると小さなことでも、その子にとっては大きな壁であり、乗り越えようとする姿は、アスリートと同じ輝きを放っています。



また、別の選手は、涙をこらえながら、「この悔しさが、きっと未来の私を強くしてくれる。」と語りました。子どもたちも同じように、ときにうまくいかない日があります。悔しい日、泣く日、ため息が出る日もあります。そんなときに、そっと寄り添い、励まし、信じ続けてくださる家庭や地域の皆さまの存在は、子どもたちにとって何よりの“安心の土台”です。寄り添い、認め、励まし続けることで、子どもたちは少しずつ強くなっていきます。

さらに、多くのアスリートが口にしていたのが、「支えてくれた人への感謝」です。個人競技のように見えても、実際には多くの人に支えられて選手たちはあの舞台に立っています。

子どもたちも同じです。子どもたちにとっても、毎日の送り出し、励ましの声かけ、見守りなど、家庭や地域のサポートが何よりの力となっています。改めて深く感謝申し上げます。

オリンピックは、私たちに大切なことを思い出させてくれました。それは、子どもは、いつか必ず輝く瞬間を迎えるということです。そのタイミングは誰にも分かりません。学習の場かもしれないし、友達とのかかわりの中かもしれません。思い切って挑戦した瞬間かもしれません。その小さな「輝きの芽」を、家庭と地域、学校とで一緒に見つけ、育てていければと思っています。冬季オリンピックの感動を胸に、これからも子どもたちの成長とともに支え、喜び合える関係を築いていけることを願っています。

結ぶ手と手が輪になって ～結小学校の輝き～

表彰

■『家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ』三行詩コンクール (岐阜県PTA連合会主催)

【小学校低学年の部 岐阜県優秀作品】 2年生児童

ぼくのとなりは おとうさん。
ほんとうは、おとうさんとおかあさんにはさまれたいけど、それはおとうとにゆず
ってあげる。
みんなでおやすみ、またあした。

■安八郡教育振興会表彰

(体育、文化活動の振興に寄与し、県1位以上の成績を収めた児童生徒を、安八郡教育振興会が表彰するもの)

5年生児童

(第50回岐阜県春季少年剣道錬成大会 5年生の部パート2 優秀賞)

6年生児童

(第24回岐阜県空手道選手権大会 小学6年生男子A 組手 優勝)

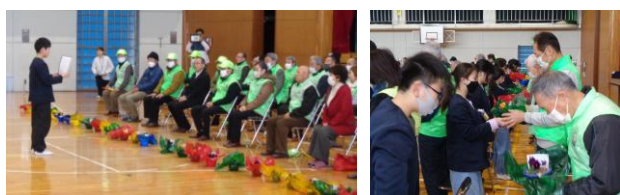
■岐阜県ふるさと教育表彰優秀賞

昨年度に引き続き、本校は岐阜県教育委員会より「岐阜県ふるさと教育表彰優秀賞」をいただくこととなりました。2年連続の受賞を大変うれしく思います。

今年度は、NPO法人なかよし学園と連携して「世界につながる学びプロジェクト」に取り組んでいます。平和を「願う」だけではなく、平和を「つくる」当事者としての自覚をもてるよう、全学年が、生活科や総合的な学習の時間での学びや、そこで実感したふるさとのよさを世界に発信する活動を行いました。



2/20(金) 感謝する会



いつも見守り、励ましてくださる地域の方々に、全校児童で作った花鉢を、感謝のメッセージとともに手渡しました。

2/25(水) たてわりお別れ会



5年生が企画し、一緒に室内遊びをしたりプレゼントを渡したりしました。6年生はうれしそうにメッセージを読んでいた。縦割り集合写真もこれが最後です。